

十勝農業試験場 見学のしおり

令和2年5月



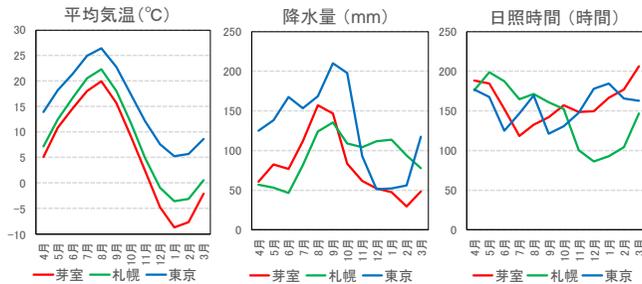
豊かな十勝農業をめざして



地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
十勝農業試験場

〒082-0081 北海道河西郡芽室町新生南9線2番地
Tel.0155-62-2431 Fax.0155-62-0680
tokachi-agri@hro.or.jp
<http://www.hro.or.jp/list/agricultural/research/tokachi/index.html>

十勝の気象



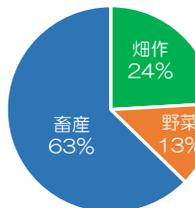
	5～10月	積算気温 (°C)	降水量 (mm)	日照時間 (時間)
芽室		2,707	657	887
札幌		3,117	549	1,035
東京		4,024	1,035	861

十勝の農業

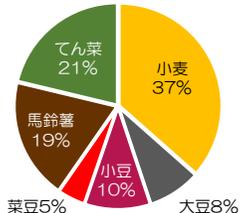
全道に占める 十勝
の農業産出額の割合



十勝の部門別
農業産出額

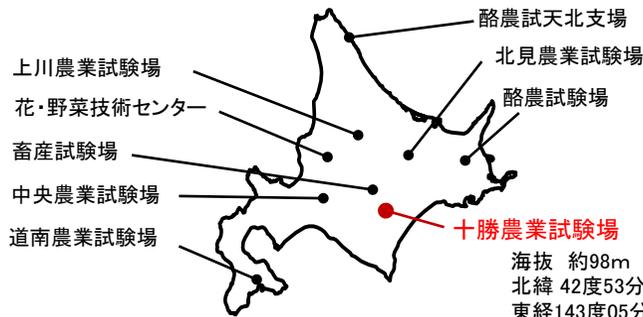


十勝の畑作物
作付面積割合



(平成30年度市町村別農業産出額(農水省)、
および2019十勝の農業(十勝総合振興局HP)より)

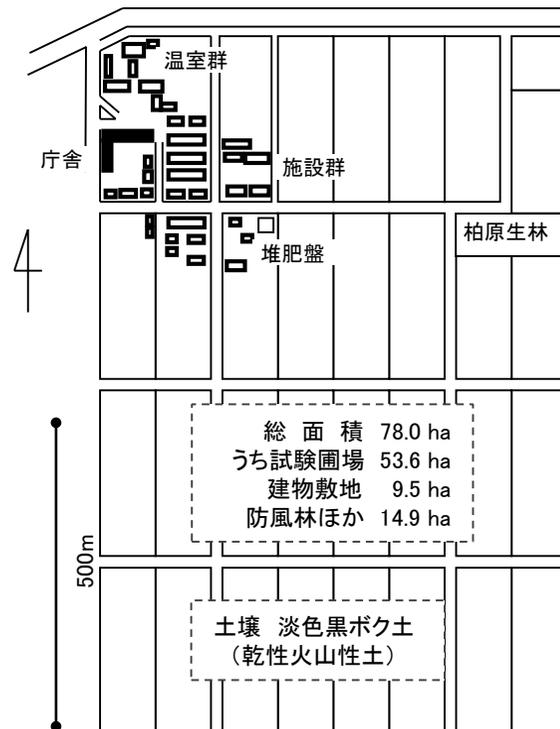
各農業試験場等の位置



沿革

- 1894(明27)年 十勝測候所内に農作物試作圃を設置
- 1895(明28)年 十勝農事試作場を北帯広村に設置(国費)
- 1901(明34)年 北海道庁地方農事試験場十勝分場
- 1909(明42)年～ 国費管轄
- 1950(昭25)年 北海道立農業試験場十勝支場(国/道分離)
- 1960(昭35)年 帯広市から現在地(芽室町)に移転
- 1964(昭39)年 北海道立十勝農業試験場に改称
- 2010(平22)年 地方独立行政法人に移行

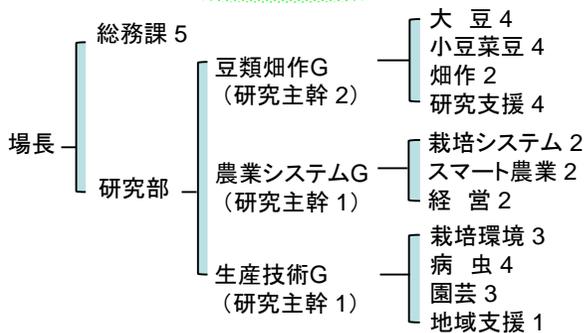
圃場図



主な研究施設

病理昆虫実験室、バイテク実験室、温室およびガラス室(5棟)、低温育種実験室(2棟)、短日育種実験室、てん菜糖分分析室、豆類乾燥施設、馬鈴薯催芽貯蔵施設、農業機械実験室、土壌・作物診断室、てん菜育苗施設、など

組織 (G=グループ)



職員数 42(令和2年4月現在)
 独法職員37名(研究職 33名、技能職 4名)
 道派遣職員 5名(行政職)

十勝農業試験場技術普及室(道職員3名の駐在)

豆類畑作グループ

■大豆

北海道の各地域に適する良質、安定多収な大豆品種の育成を行っています。
 育種目標は、多収性、高加工適性、ダイズシストセンチュウ抵抗性、耐冷性、耐湿性、ダイズわい化病抵抗性などで、主な用途は豆腐、煮豆、味噌、納豆です。

■小豆菜豆

全道向けの小豆、菜豆(金時、手亡など)の品種育成を行っています。
 小豆の育種目標は、耐冷性、耐病性、機械化栽培適性を持つ、品質の良い多収品種の育成です。
 菜豆の育種目標は、良質、多収、耐倒伏性で病気に強い金時および手亡などの品種育成です。
 また、新規用途としてサラダ等料理に向けた品種の育成も行っていきます。

■畑作

十勝の主要な畑作物目である小麦、馬鈴しょ、てん菜の新品種開発や栽培技術に関する試験に取り組んでいます。

■研究支援

試験に伴う作業計画の調整、圃場の管理、作業機械や車両の管理、場内環境整備を担当しています。



主な育成品種と新技術

■最近の育成品種

- 大豆「ユキホマレR」(H22)
 「とよみづき」(H24)
 「とよまどか」(H30)
- 小豆「きたあすか」(H22)
 「ちはやひめ」(H28)
 「エリモ167」(H29)
- 菜豆「かちどき」(H29)
 「きたロッソ」(H29)
 「秋晴れ」(H31)
- ながいも「とかち太郎」(H25)



エリモショウズ記念碑

■最近の新技術・試験成績

- ながいもの安定生産に向けた催芽法改善(R2)
 - 土壤凍結深制御技術の適用拡大と技術体系化(R2)
 - 球肥大改善に向けた直播たまねぎの窒素分施肥法(R2)
 - ブームスプレーヤーのノズルピッチ拡大による畑作物主要病害虫防除の実用性(R2)
 - 定置式除土積込機を用いたてんさい輸送体系の能率と経済性(R2)
 - ロボットトラクタの適用作業及び作業時間の短縮効果(R2)
 - 畑輪作におけるにんじん・たまねぎに対するマップベース可変施肥技術の適用(R2)
 - 生育・収量・土壌センシング情報の活用による可変施肥効果の安定化(R2)
- ◆これまでに出版された研究成果は、道総研ホームページの「農業技術情報広場」より検索できます。

生産技術グループ

■栽培環境

リモートセンシング等を活用した効果的な土壌・生育診断技術の開発や、適切な施肥技術の開発、堆肥など有機物や有機質資材の活用法について研究しています。
 また、新しい肥料・土壌改良剤の実用化や、環境保全対策、土壌調査などにも取り組んでいます。

■病虫

主要な畑作物および野菜の重要・難防除病害虫に対して、発生生態や発生状況に応じた、的確で環境にやさしい防除法の開発を行っています。
 また、病害虫の発生予察や病害虫診断、新農薬の効果査定試験などを行っています。



■園芸

やまのいも類などの高収益野菜に関する各種試験に取り組んでいます。



■地域支援

技術普及室と連携し、地域へ新技術を普及するための実証試験や、地域農業技術支援会議を通じた活動により、地域農業の技術的課題の解決を図っています。

農業システムグループ

■栽培システム

生産コスト低減、機械化・省力化・高能率化、環境負荷軽減などの視点に立ち、畑作物の播種、施肥、収穫などの栽培システムやバイオマス資源の利活用に関する試験研究を行っています。

■スマート農業

農作業の省力化や大規模化に対応するため、センシング技術を活用した精密農業技術や自動操舵、ロボットトラクタの利活用に関する試験研究に取り組んでいます。



■経営

新たに開発された農業技術の経済性評価や高収益・低コスト経営の確立に向けた経営管理手法の開発、個々の経営をサポートする地域的な支援体制のあり方に関する研究を行っています。

十勝農業試験場技術普及室

道の普及指導員が在勤し、農業改良普及センターの活動支援や、十勝農試と連携した地域支援活動を行っています。